

技術概要書（様式）

※別紙2

出展技術の分類	安全・防災	インフラDX	維持管理	環境	コスト	品質	(該当分類に○を付記)
技術名称	建設発生土のリサイクルと適正利用		担当部署	事務局			
NETIS登録番号			担当者	川島 徹			
社名等	一般社団法人全国建設発生土リサイクル協会		電話番号	03-3526-2129			
技術の概要	1. 技術開発の背景及び契機						
	<p>当会は「全国各地で起きている建設発生土の問題に取り組み、有限な資源である土を如何に持続可能な資源に導くか」との問いから誕生しました。建設発生土のリサイクルに取り組む関係者が、地域や立場を越えリサイクルの課題を共有し、その課題解決のために協働する必要があると考えます。</p> <p>令和5年に改正された資源有効利用促進法省令により、元請業者は搬出された建設発生土が不法・危険な盛土等に利用されないことがないよう、最終搬出先まで確認することが義務付けられました。一方、国土交通省「ストックヤード運営事業者登録制度」の登録ストックヤードに搬出した場合は、元請業者は最終搬出先までの確認は不要となります。これらの制度が適切に運用されるよう、当協会では情報の共有と指導を行っております。</p>						
	2. 技術の内容						
	<p>当協会が全国の土質改良プラント・ストックヤードを対象に2021年12月に実施したアンケート調査によれば、受入土量に対する出荷土量(他工事で利用された量)の比率は、土質改良プラント25%、ストックヤード64%。</p> <p>建設発生土を工事間で利用する際の土質調整、土工期調整のための施設である土質改良プラント、ストックヤードが「残土処分地」化している実態があり、特に土質改良プラントにおいてその傾向が顕著といえます。</p> <p>発生土の搬出(施設への持込)と改良土又は普通土(ストック土)の利用(施設からの持ち出し)をセット(一対)とすることで、初めてリサイクルとなります。</p>						
	3. 技術の効果						
<p>改良土とは、建設発生土に水分調整、粒度分別、生石灰添加などを施した土のことです。土質改良プラントはストックヤード運営事業者にも該当し、改良土の利用先が最終搬出先ともなります。資源有効利用促進のためにも、改良土の普及は効果的であることを提唱しています。その他、改良土利用のメリットは下記の通りです。</p> <p><改良土利用の主なメリット></p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設発生土処分量の低減、省資源・省エネルギー ・建設発生土の処分方法および数量が明確になる ・高い作業性・対応性・品質性能 ・液状化対策に有効 							
4. 技術の適用範囲							
<ol style="list-style-type: none"> 1) 建設発生土リサイクル等講習会開催 2) JASRAホームページを建設発生土情報に特化したポータルサイトとして構築・運営 3) 関係学会等との連携強化 4) 教育現場との連携強化 5) 若手研究者の育成 6) あらゆる機会を捉えた建設発生土リサイクル、JASRAのPR 7) 国際的ネットワークの構築 							
5. 活用実績							
<ol style="list-style-type: none"> 1) 「土質改良プラント、ストックヤード、受入地」情報共有システム整備 2) 上記1を活用した都道府県単位の建設発生土利用調整(マネジメント)しくみ整備 3) 建設発生土有効利用事例整理 4) 建設発生土リサイクル等講習会開催 5) 建設発生土リサイクル技術研修 6) 地方自治体への発生土有効利用に関する情報提供 							

6. 写真・図・表

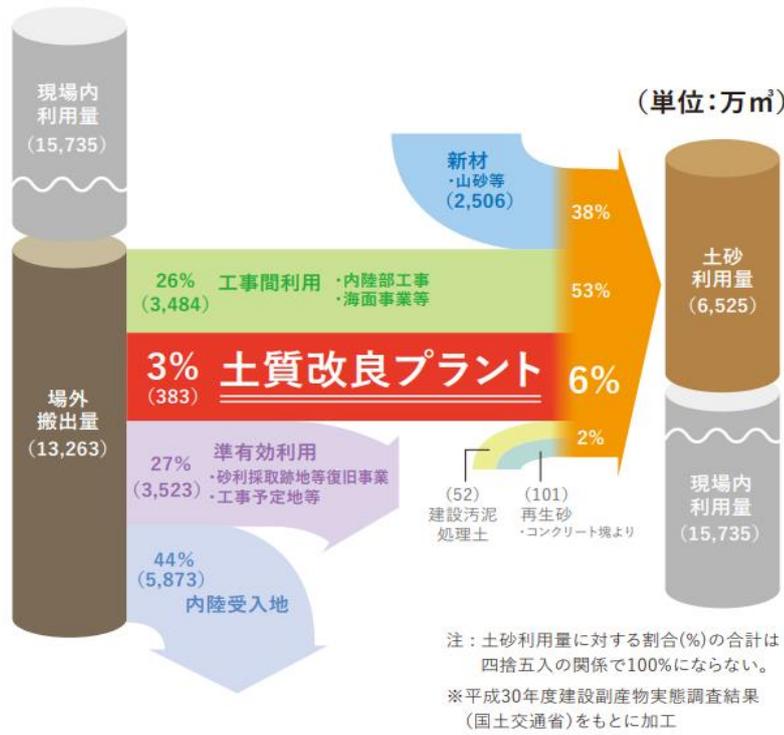


図1 土質改良プラントの利用率

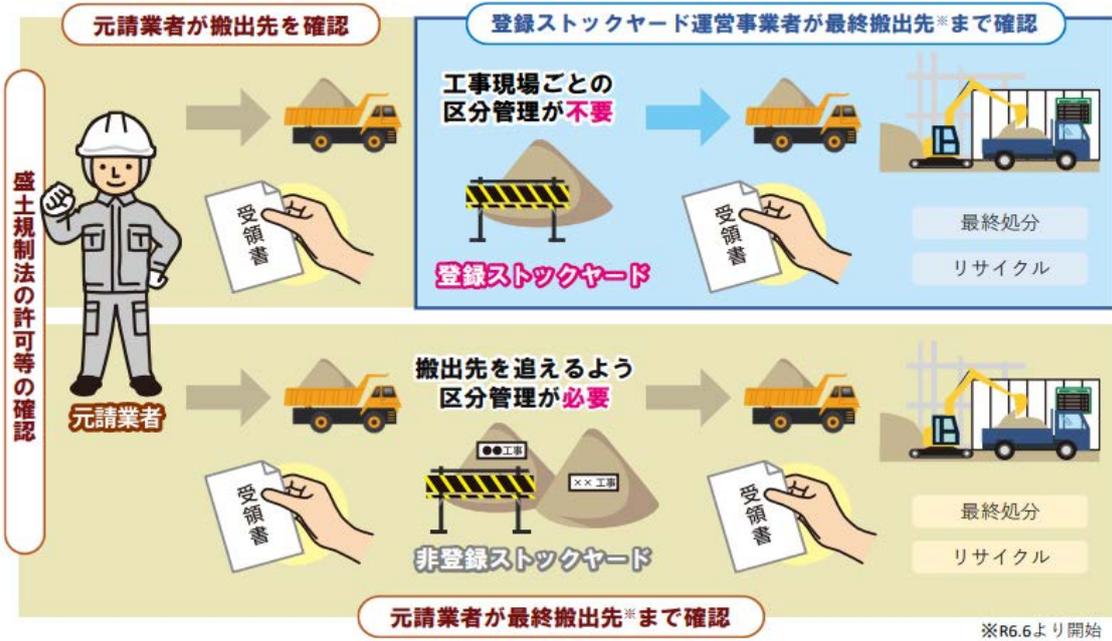


図2 国交省「ストックヤード運営事業者登録制度」チラシより